

平成22年 敬老作文集

敬老作文コンクールの入賞者の表彰と最優秀賞を受賞された方からの朗読発表が、今年も敬老式会場で行なわれました。

今年は井川小学校2年生並びに5年生、井川中学校2年生を対象として、合わせて133点の応募があり、それぞれ最優秀賞1点、優秀賞2点、優良賞2点の計10点が選ばれました。

入賞された方々の敬老作文をご紹介します。

小学生の部

最優秀賞

私の自まんのおばあちゃん

井川小5年 遠藤 蝶



蝶さん
(小今戸)

私のおばあちゃんは、今、九十八才です。おばあちゃんは、大正生まれです。

九十八才なのに、私には、六十才に見えます。それは、私のおばあちゃんは、自分でご飯を食べるし、服も自分で着るし、何でも自分でできるからです。

おばあちゃんは、離れて住んでいます。時々遊びに行くと、おばあちゃんは私を呼んで、私の頭の手をのせ、「大きくなったねえ。」と言ってくれます。

おばあちゃんは、いつもテレビ

の前のいすにこしかけています。夏なのに、毛布を三枚も四枚もかけていることがあります。かぜをひいているんじゃないかなあと心配になります。また、こんなこともありました。いつものようにいすにこしかけているときに、バランスをくずして肩から外にころげ落ちてしまったのです。いすにこしかけているから安全だと判断してはいけないうちと思いました。

おばあちゃんは、週に三回、デイサービスセンターに通っています。センターに行く日、おばあちゃんは、いつもニコニコしています。それは、私がおばあちゃんのたん生日におくった、画用紙に絵の具でかいたおばあちゃんの絵を、センターのしょく員のほうが、「上手だねえ。本当にそっくり。」とほめてくれたからだそうです。それを聞いて、私もうれしくなりました。

おばあちゃんは、センターで、いろいろな物を作り、家に持ってきます。コースターやえん筆立て、ティッシュケースも作ってきました。

た。

おばあちゃんのベッドの横には、いつも兄と私の小さいころの写真が飾られています。おばあちゃんは、いつも私たちのことをかわいがってくれているんだなあ。私は、そんなおばあちゃんが大好きです。

優秀賞

おじいさん、おばあさん、

ありがとう

井川小2年 伊藤 陽日葵



陽日葵さん
(横 岡)

わたしのおばあさんは、おりょうりがじょうずです。おじいさんは、はたけしごとがじょうずです。わたしは、おじいさんとおばあさんがいてよかったなと思います。さいしょに、おばあさんのこと

を話します。おばあさんは、お
りようりがじょうずです。おばあ
さんのおりようりで、わたしが一
ばんすきなものは、ハンバーグで
す。ハンバーグは、ソースにキノ
コが入っているにこみハンバーグ
です。オムレツもじょうずです。
オムレツには、チーズやベーコン
が入っていて、とてもおいしいで
す。

つぎに、おじいさんのことを話
します。おじいさんは、はたけし
ごとがじょうずです。おじいさん
のキャベツは、やさいで一ばんお
いしいです。そのまま食べると
シャキシャキしておいしいし、ゆ
でるとやわらかくなってたくさん
食べることができます。おじいさ
んは、毎日水をかけたり、ひりよ
うをあげたりしています。やさし
く、だいにやさいをそだててい
るからおいしいのだと思います。
わたしが、ころんでしまったと
き、おじいさんとおばあさんは、
「ひびちゃん、だいじょうぶ。」
と声をかけてくれます。そうする
と、ちよつといたいのがおさま

ます。おじいさんとおばあさんは、
まほうつかいのようにいたいのを
なおしてくれます。そのとき、わ
たしはいつもこう思います。おじ
いさんとおばあさんがいてくれて
よかったな。

「おじいさん、おばあさん、あり
がとう。これからも元気でいて
ね。」

とても親切な

おじいさんおばあさん

井川小5年 湊 遥輝



遥輝さん
(街道)

ぼくには、いっしょに住んでい
ないけど、おじいさんとおばあさ
んがいます。おばあさんは、自分
の家の家事などをします。ぼくは、
おばあさんの作る煮付けが大好き
です。お母さんやお父さんが作る
煮付けより、なぜだかわからない
けど、おばあさんの煮付けはおい

しくて最高の味なのです。最近、
おばあさんはこしが痛いと言って
いるので少し心配だけど、おこる
パワーと笑うパワーは最強なので
いつまでもこの元気でいてほしい
です。

おじいさんは、山へ行くことや
大工仕事が趣味です。ぼくの家の
修理や、たな作りなどは、あつと
いう間に仕上げてしまいます。山
へ行ったときは山菜をとってきて
くれます。そのとってきた山菜は、

おじいさんが自分で料理してぼく
たちに食べさせてくれます。その
うえおじいさんはたまに、妹には
話さずにぼくをラーメンを食べに
連れていってくれます。いつも行
くのは、井川町にある「志之助」
という店です。二人つきりでゆつ
くり食べる時間がとても満足でき
ます。

おじいさん、おばあさんは、ぼ
くがいま夢中になっっているバス
ケットのことでも、「上手になつ
たね。」とほめてくれたり、練習
試合などの後には、おじいさんが
「もう少しこれをこうした方がい

いよ。」などとアドバイスをして
くれるときもあり、とてもうれし
いです。ぼくのことを気にかけて
くれてありがとう。

いつも親切にしてくれているお
じいさんおばあさんは、おこるこ
ともあるけど大好きです。これか
ら、おじいさんおばあさんの喜
ぶ顔をみていたいのです。だから
ずつとぼくの力になってくださ
い。

おじいさんおばあさん、体を大
切にして笑顔のパワーでギネス
ブックにのるくらい長生きしてく
ださい。



優良賞

おじいちゃんのとくいなこと

井川小2年 藤田 晴彦



晴彦さん
(新屋敷)

ぼくのおじいちゃんは、のうさぎようがとくいです。たねをまいたり、田うえをしたり、田んぼのしごとを、いろいろしています。

春には、たねをそだてるだしを、長いきかいに入れるさぎようをします。ぼくは、おじいちゃんといっしょに、だしをおくさぎようを手つだつたことがあります。すると、おじいちゃんが、「ありがとう。」と言ってくれるので、うれしいです。

みどりのめが出ると、おこめを田んぼにうえます。すると、どんな大きくなります。草も大きくなるので、草かりもときどきします。大きな回るはがついた草かり

きで草をかります。

「田んぼのまわりの草をかると、いねがよくそだつんだよ。」と、おじいちゃんは言います。ぼくは、いねがたくさんそだつといいなと思います。

あきには、おじいちゃんがつくったおこめができます。ぼくは、おじいちゃんといっしょにコンバインにのつたことがあります。コンバインは、いねをかるさかいです。すごく大きな音がして、ガタガタゆれます。おじいちゃんの声が聞こえないくらい大きな音がします。おじいちゃんは、レバーをうごかして、コンバインをどんどんすすめます。

おじいちゃんをつくったおこめはおいしいです。ごはんをたくさん、白くてぴかぴかしたつやが出ます。そのまま食べてもおいしいです。

ぼくは、のうさぎようが上手なおじいちゃんが大すきです。これからも、おいしいおこめをつくってほしいです。おじいちゃんが、元気でいてくれるとうれしいです。

「野菜作りの名人だ」

井川小5年 北野 恋



恋さん
(街道)

ガラガラ。「ただいまー。」

「お帰りー。」と言ってくれるおばあちゃん。おばあちゃんの興味は野菜作りだ。おばあちゃんは、約二十種類ほどの野菜を作っている。例えば、アスパラガス、トマト、ネギ、キャベツ、にんじん、大根など。野菜を育てるのは、おばあちゃん。そして畑の草取りをするのは、おじいちゃんだ。

おばあちゃんは、料理も上手だ。ぼくが一番好きなのは、きゅうりのつけ物だ。しゃきしゃきしていて、とてもおいしい。伝統の味だと思う。二番目に好きなメニューは、モロヘイヤのみそ汁だ。つるつるしていてとてもおいしい。モロヘイヤは栄養価がとて

も高くて、体にいい野菜だそうだ。

おばあちゃんは、焼けつくような暑い日でも汗を流しながら一生けん命野菜を作っている。冬の体がおこるような寒さの中でも、次の年の畑のじゅんぴをしている。おじいちゃんも体調がすぐれない中で、おばあちゃんの手伝いをしている。ぼくたちのために仕事をしている二人に、とても感謝している。でも、ぼくは、おばあちゃんとおじいちゃんにあまり手伝うことをしないので、これからは月に十回くらい手伝いたいと思う。ぼくが手伝うとちよつとは楽になると思う。

ぼくは、おばあちゃんより力があるので重い物を持つてあげたい。その他にも何か困っていることがあったら、その場で助けてあげたいと考えている。

おばあちゃん、ぼくも大人になつたら畑仕事をしたいと思っています。おばあちゃんが作る野菜は、どれも最高の味だと思っています。だから、ぼくにも野菜の作り方をぜひ教えてください。

中学生の部

最優秀賞

私のひいおばあさん

井川中2年 石井 南



南さん
(宇治木)

私にはおじいさん、おばあさんが四人います。また、もう亡くなっ
てしまいましたが、私が、生まれ
たころには三人のひいおばあさん
がいました。その中の一人のひい
おばあさんのことについて書きた
いと思います。

そのひいおばあさんは一緒に住
んでいるおばあさんのお母さんで
す。私が幼い時に一度だけ家に
行ったことがあります。でも、
体が弱くなり二、三年くらい前に
施設に入りました。私もおばあさ

んと一緒に四回くらい行ったこと
があります。初めて会いに行った
ときの印象は、白髪が少なくて
びっくりしたことです。九十歳く
らいの年齢なのにすごく若くみえ
ました。娘であるおばあさんはひ
いおばあさんの話をいつも熱心に
聞いていました。ですが、おばあ
さんの顔からは少し悲しい感情が
あるように思えました。このひ
いおばあさんは、病気などで娘や
息子を何人も亡くしていました。
子供が先に他界するのはどのよう
な気持ちなのだろうと思いまし
た。子供の分まで長く生きようと
思うのか、又は氣力をなくしてし
まうのか。ひいおばあさんの姿か
らは子供の分まで生きようと強く
思っていたように思います。でも、
会えば会うたびだんだん白髪が増
えていき弱っていくのはすごく悲
しかったです。それでも、九十歳
になっても白髪が少なかったこと
や歩行機を使いながらも一生懸命
歩いていたことは私にとってすご
く自慢できることです。

ひいおばあさんが亡くなったと

きには、みんな「よくがんばった」
と言っていました。よく長生きし
てくれた。ありがとう。私もそう
思いました。悲しいって気持ちよ
りありがとうって気持ちのほうが
大きかったと思います。

これからは、お年寄りの方々を
大切にしていき、私も役に立ちた
いです。そして、一人でも多くの
方々に長生きしてほしいです。ま
た、その方達が長生きしたことに
感謝していつまでも忘れずにいて
くれる方々が増えてほしいと思い
ます。



優秀賞

僕のおじいさん、

おばあさん

井川中2年 乳井 至恩



至恩さん
(街道)

ぼくのおじいさん、おばあさん
は大館市に住んでいます。そのお
じいさん、おばあさんはどちらも
八十歳以上です。しかしおじいさ
んは今年、一回入院しました。ぼ
くはショックでした。今まで、と
ても元気だったおじいさんが急に
入院するなんて考えられなかった
からです。でも今は退院しまし
た。とてもうれしかったです。

逆におばあさんの方はまだまだ
元気です。ただこのごろつえを使
うようになって、少し心配です。
でもそれ以外は大丈夫なので、ほ

くはもっと生きてほしいと思います。

なぜならば、これはこのおばあさんからとても大切なことを教えてもらい、さらにとてもかわいがってもらっているからです。

ぼくは小さい頃かなりの人見知りでした。今も人見知りですが、昔はもっとすごい人見知りでした。たとえば友達のお母さんと会っても恥ずかしがり、親の陰にかくれるぐらいでした。でもおばあさんはそれを悪く言わず「隠れんぼ上手だね。」と言ってくれました。そしてそれから、「恥ずかしがることは悪いことではないよ。恥ずかしがることはお前の特徴だから大切にしないさい。」と言ってくれました。それを聞いたぼくは「恥ずかしがるのは悪くないんだ。」という言葉に感動しました。今までそれをずっと悪く言われてきたからです。

ぼくもそれを見習い人の悪い所を良い所に変えて言えるおばあさんのようになりたいです。

おじいさんへの心の手紙

井川中2年 渡辺 美咲



美咲さん
(小戸)

私のおじいさんはとても元気です。いつも家では仕事で忙しい母や父のかわりに庭の草刈りや家のそうじをしてくれます。私が部活がおわって帰ってくると電氣をつけてげんかんで待っていてくれます。

おじいさんは仕事もやっています。最近仕事もなくなってきた家にはいますが、たまに仕事ができると、とても喜んでいました。昔はいつも仕事から帰って来ると、「ただいま」の次におじいさんが発言するのは、「つかれた」だったのに今になるとただいまよりも先に、「楽しかった」と言う言葉が耳に入ってきます。私はおじい

さんに、「昔はつかれたと言っていたのに今はどうして楽しいの。」と言うとおじいさんは「家族のために働くと言うのは楽しいことだよ。仕事がなくなると改めて仕事の楽しさに気付くことができてよかった」と言っていました。おじいさん、その言葉は美咲の心に大きく響いたよ。

私は家の中でおじいさんとは誰

よりもたくさんケンカをしています。その時はお互いに気が強くて顔もあわせないけど次の日になると普通に昨日のケンカが嘘みたいに話ができるのはいつもすごく不思議だったけど、今考えるとおじいさんのおかげだね。いつも負けてるのはくやしだけれど、心から「ありがとう」って思っているよ。

今、美咲がお花大好きになったのもきっとおじいさんのおかげ。今年はいつもの年よりも植物の事に力を入れておじいさん。花を買って来て庭に植えたり、草刈りした



り、咲きおわったばらの花を来年のために茎から切ったり…数えきれないほど手入れをしているのは家族全員わかってるよ。おかげで今年は昨年よりきれいに咲いたね。ありがとう。

本当に数えきれないくらいありがとう。いつも直接口では言えないけど、心ではたくさん言ってるよ。長生きしてね。

優良賞

僕のおばあちゃんと

おじいちゃん

井川中2年 景山 康平



康平さん
(さくら)

僕のおばあちゃんは家で郵便局をやっています。おじいちゃんが死んでから六年がたちますが、一人で精一杯働いていると思います。その忙しいおばあちゃんも、休みの日には、いつも僕の野球の試合を観に来てくれます。仕事で疲れているはずなのに、今日の試合はすごかったねーと言ってくれます。そういうおばあちゃんにはすごく感謝しています。

そして僕のおばあちゃんは、すごくもの知りということもあります。お風呂に入ったら、足首を上

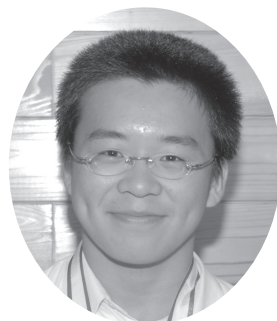
下にゆつくりと動かすと血こうが良くなり、足が軽くなるのだそうです。実際にやってみたら、本当にその通りで、やっぱりおばあちゃんなんでも知っているなと思いました。

そして僕のおじいちゃんも、いつも僕の試合を観に来てくれます。来てないことがないんじゃないかというぐらい毎回観に来てくれるので、すごく励みになります。つい、こないだも、おじいちゃんのがんの手術が終わって予定より何日も早く退院して、体も万全ではないのにもかかわらず、そのままたま、試合を観に来てくれました。うちの親もそのまま試合を観に来るとは思っていなかったので、おじいちゃんを見つけた時にはすごくびっくりしていました。

そんなおじいちゃんもおばあちゃんも、家では一人なので、さみしいと思います。だから、たまには僕も電話をして、孫の声を聞かせてやりたいです。

おばあちゃんに言いたいこと

井川中2年 渡部 悦史



悦史さん
(新 間)

僕が小学生の頃おばあちゃんは朝早く畑に行くなどとても元気だった。今は元気なのだがとても足が痛いらしく家にいることが多くなった。

今は休みの日、部活が終わった後に足が痛いのかかわらず、僕や姉のためにご飯を作ってくれている。僕も手伝いたいけどシャワーをあびたり、着がえたりで全部が終わったと思えばご飯の準備が終わっていたりする。

その他に母、姉、僕がいない時はほとんどの家事をこなしている。そんなおばあちゃんの一歩の楽しみは近所の友達と僕の家でお茶をしながら話することだ。だから

僕はその時は自分の部屋に行き、できるだけじゃましないようにしている。まあいつもご飯を作ってくれたりしているのだから、これがあたりまえのように思えた。

僕は休みの日、母に「勉強しなさい」と言われることが多い。それでも僕はやらない事が多い。だが、おばあちゃんに「悦史勉強せ」みたいと言われると、なぜかやってしまう事が多いと思う。それはその言葉を聞くといつもおばあちゃんが僕のために苦労していると考えて勉強をするのだと思う。

足が痛いんだけど僕のために一生懸命がんばってくれているおばあちゃん。僕はそんなおばあちゃんが好きだ。けれどもあまり無理はしないで欲しいと思う。僕もおばあちゃんが僕のためにがんばってくれているように、僕もおばあちゃんのために何か手伝いをしてあげたいと思う。そしておばあちゃんへの感謝の気持ちをもち、おばあちゃんに言いたい「おばあちゃんありがとう。」